

中3「平和の詩」

沖縄「慰霊の日」暗唱



「生きる」を披露する相良倫子さん

私が生きている限り、こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さない

私は、生きています。／マントルの熱を伝える大地を踏みしめ、／心地よい温気を孕(はら)んだ風を全身に受け、／草の匂いを鼻孔に感じ、／遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。私は今、生きています。私の生きるこの島は、／何と美しい島だろう。／青く輝く海、／岩に打ち寄せしぶきを上げて光る波、／山羊(やぎ)の嘶(いななき)、／小川のせせらぎ、／畑に続く小道、／萌(も)え出(い)づる山の緑、／優しい三線(さんしん)の響き、／照りつける太陽の光。私はなんと美しい島に、／生まれ育ったのだらう。ありったけの私の感覚器で、感受性で、／島を感じる。心がじわりと熱くなる。私はこの瞬間を、生きています。この瞬間の素晴らしさが／この

「生きる」 (全文)

瞬間の愛(いと)おしさが／今と言(い)う安(やす)らぎとなり／私の中に広がりゆく。たまらなく込み上げるこの気持ち／どう表現しよう。／大切は今よ／かけがえのない今よ私の生きる、この今よ。七十三年前、／私の愛する島が、死の島と化したあの日。／小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。／優しく響く三線は、爆撃の轟(とどろき)に消えた。／青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった。／草の匂いは死臭で濁り、／光り輝いていた海の水面(みなも)は、／戦艦で埋め尽くされた。／火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、／燃えつくされた民家、火薬の匂い。／着弾に揺れる大地。血に染まった海。／魅(ま)せられた(ちみもりよう)の如(ごと)く、姿を変えた人々。／阿鼻叫喚(あびきょうかん)の壮絶な戦の記憶。みんな、生きていたのだ。／私と何も変わらない、／懸命に生きる命だったのだ。／彼らの人生を、それぞれの未来を。／疑うことなく、思い描いていたんだ。／家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。／仕事があった。生きていがあった。／日々の小さな幸せを喜んだ。手をとり合って生きてきた、私と同じに。／壊されて、奪われた。／生きた時代が違(ちが)う。ただ、それだけで。／無辜(むこ)の命を。あたり前に生きていた、あの日々を。摩文仁(まぶんじん)の丘。眼下に広がる穏やかな海。／悲しくて、忘れることのできない、この島の全て。／私は手を強く握り、誓(ちか)う。／奪われた命に想(おも)いを馳(は)せ

て、／心から、誓(ちか)う。私が生きている限り、／こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。／もう二度と過去を未来にしないこと。／全ての人間が、国境を越え、人種を越え、宗教を越え、あらゆる利害を越えて、平和である世界を目指すこと。／生きる事、命を大切にできることを、／誰からも侵(をか)されない世界を創ること。／平和を創造する努力を、厭(いと)わないことを。あなたも、感じるだらう。／この島の美しさを。／あなたも知っているだらう。／この島の悲しみを。／そして、あなたも、私と同じ瞬間(とき)を。／一緒に生きているのだ。今一緒に、生きているのだ。だから、きつとわかるはずなんだ。／戦争の無意味さを。本当

6月23日の「慰霊の日」の沖縄全戦没者追悼式で、沖縄県浦添市立港川中学校3年相良倫子さん(14)が読んだ平和の詩「生きる」が、今も反響を呼んでいる。著名人から絶賛される一方、厳しい声もあった。相良さんは多様な意見が出た経験を糧に「もっと大きく物事を見られる人になりたい」と話している。

の平和を。／頭じゃなくて、その心で。／戦力という愚かな力を持つことで、／得られる平和など、本当は無いことを。／平和とは、あたり前に生きていること。／その命を精一杯輝かせて生きるのだということ。私は、今を生きている。／みんなと一緒に。／そして、これからも生きていく。／一日一日を大切に。／平和を想って。平和を祈って。／なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。／つまり、未来は、今なんだ。大好きな、私の島。／誇り高き、みんなの島。／そして、この島に生きる、すべての命。／私と共に今を生きている、私の友。私の家族。これからも、共に生きてゆこう。／この青に囲まれた美しい故郷から。／真の平和を発進しよう。／一人一人が立ち上がって、／みんなが未来を歩んでいこう。